（表紙）

大阪じょう東部地区のまちづくりの方向性

大阪府・大阪市　二千二十年九月

（表紙終わり）

（１ページ）

# はじめに

大阪じょう東部地区は、大阪じょう公園の東側に位置する約五十三ヘクタールのエリアで、複数の鉄道駅や、豊かな緑を有し、こくさいてきな観光拠点でもある大阪じょう公園に近接するなど、大阪を代表する拠点となり得るポテンシャルを有しています。しかし、地区内には、もと森の宮工場（ごみ焼却工場）やその建て替え計画用地、府立成人病センター跡地などの未利用地のほか、大阪メトロけんしゃじょうやＪＲ森ノ宮電車区等の鉄道施設などが存在しており、高度な都市てき利用がなされず、地区のポテンシャルを活かしきれていない状況にあります。また、地区内から大阪じょう方面へのアクセスや、地区内のしょうし高齢化、生活利便系の施設不足などの課題の解決が必要となっているところです。

当地区のまちづくりについては、二千十二年（平成二十四年）六月に「グランドデザイン・大阪」を府市にて策定し､「大阪じょう・周辺エリア」として象徴てきなエリアの一つに位置づけ、大阪じょう公園と周辺のにぎわい創出や世界てき観光拠点としての魅力向上、森の宮周辺の活性化を図ることとしました。また、二千十六年（平成二十八年）七月には、地区内の市有地の有効かつように係るマーケット・リサーチの実施にあわせ、「観光集客・健康医療・人材育成・居住機能の集積により、た世代・多様な人が集い、交流をはぐくむまち」をまちづくりのコンセプトとした「大阪じょう東部地区のまちづくりの方向性（素案）」を公表いたしました。

この「大阪じょう東部地区のまちづくりの方向性」については、二千十九年（令和元年）八月に公立大学法人大阪が公表した「新大学基本構想」において、二千二十五年（令和七年）をめどにとう地区に新大学の都心メインキャンパスを整備する方針が示されたこと等を受け、当地区のまちづくりのコンセプトや土地利用計画の具体化を図ることを目的に、二千十九年（令和元年）十二月より大阪府、大阪市、地権者等の関係者による「大阪じょう東部地区まちづくり検討会」を開催し、この検討会のなかで、各委員からいただいた意見も踏まえ、二千二十年（令和元年）三月、府市として「大阪じょう東部地区のまちづくりの方向性（案）」を取りまとめ、五月から六月に、この案についてのパブリック・コメントによる意見募集を実施し、そこでいただいたご意見もさんこうに策定したものです。

今後は、この方向性に基づき、社会経済情勢の変化や課題に対応しつつ、てい未利用地等の土地利用転換や既存施設の機能更新にあわせて、土地の高度利用を図り、新大学を先導役にした、た世代・多様な人が集い、交流するこくさいしょくある拠点の形成の実現に向け、まちづくりを推進してまいります。

（１ページ終わり）

（２ページ）

# 大阪じょう東部地区まちづくり検討会の概要

## （１）検討会の目的

大阪じょう東部地区におけるまちづくりに関して、大阪府、大阪市、地権者等の関係者による意見交換を行い、当地区のまちづくりのコンセプトや土地利用の具体化を図るため、大阪じょう東部地区まちづくり検討会（以下「検討会」という。）を開催する。

## （２）検討会の構成（所属、氏名（けい省略））

（地方公共団体）

大阪府副知事　田中せいごう

大阪市副市長　高橋徹

大阪市城東区長（オブザーバー）　松本勝己

大阪市東成区長（オブザーバー）　麻野篤

（民間事業者等）

西日本旅客鉄道株式会社 取締役兼常務執行役員　杉岡篤

大阪市高速電気軌道株式会社 執行役員　土肥たかゆき

独立行政法人都市再生機構 理事・西日本支社長　にいだたきと

公立大学法人大阪 理事長　西澤よしき

大阪府立大学学長（オブザーバー）　辰巳さご　昌弘

大阪市立大学学長（オブザーバー）　荒川哲男

（学識経験者）

立命館大学理工学部環境都市工学科教授　岡井有佳

大阪市立大学大学院工学研究科教授　嘉名こういち

大阪大学サイバーメディアセンター センター長、教授　下條真司

大阪府立大学研究推進機構特別教授、大阪府立大学観光産業戦略研究所長　橋爪紳也

※事務局は大阪府住宅まちづくり部、大阪市都市計画局が務める。

※オブザーバーとして関係部局等も出席

## （３）検討会の進めかた

### 第１回検討会（令和元年十二月二十七日）

１．情報提供・事務局提案

（内容）地区の位置づけ、地区のポテンシャル（外部要因）、地区内の現況と課題（内部要因）、これまでのまちづくりの経過、地区を取り巻く新たな動向（大学立地、スマートシティ）、まちづくりコンセプト及び戦略（たたき台）の提案

２．意見交換

（内容）まちづくりコンセプト及び戦略について（新キャンパスの果たす役割など）

３．成果

（内容）コンセプト（キーワード）（新キャンパスの果たす役割など）

### 第２回検討会（令和二年二月七日）

１．情報提供・事務局提案

（内容）まちづくりコンセプト及び戦略、新キャンパスの果たすべき役割の提案、地区内の土地利用計画（たたき台）の提案、ちく内の基盤整備計画（たたき台）の提案、想定される進めかた（たたき台）の提案

２．意見交換

（内容）コンセプト等について、土地利用・基盤整備計画について

３．成果

（内容）まちづくりのコンセプト・新キャンパスの役割、土地利用・基盤整備（方向性）、想定される開発の進めかた（方向性）

### 第３回検討会（令和二年三月二十三日）

１．情報提供・事務局提案

（内容）土地利用計画（修正案）の提案、基盤整備計画（修正案）の提案、想定される開発の進めかた（修正案）の提案

２．意見交換

（内容）修正案について

３．成果

（内容）土地利用・基盤整備、想定される開発の進めかた

令和二年度以降（事業手法・スケジュール等の具体てき検討へ）

（２ページ終わり）

（３ページ）

# １．大阪じょう東部地区の現況と動向

## （１）地区の位置付け

・グランドデザイン・大阪（平成二十四年､府市にて策定）では､「大阪じょう・周辺エリア」として象徴てきなエリアの一つにいちづけ。大阪じょう公園と周辺のにぎわい創出および森の宮周辺の活性化を図ることとしている。

・大阪の文化・観光・学術・交流機能が集積する東西都市軸の東部に位置する重要拠点である。

・東西都市軸じょうにおいては下記のように様々なまちづくりが進められているところであり、東の拠点としての当地区の重要性　が高まっている。

→夢しまにおいては、二千二十五年大阪・関西万博の開催が決定し、IR（統合型リゾート）立地の実現に向けた取組が進捗

→中之島四丁目においては「未来医療国際拠点」の実現に向け取組が進捗

→京橋においては、二千十七年八月に「都市再生緊急整備地域」に指定

・当地区における、魅力あふれる新都市空間の創造は、大阪全体の発展を牽引。

## （２）地区のポテンシャル（外部要因）

・年間千三百三十九万人（二千十七年実績）の来場者すうを誇る国際てきな観光拠点であり、豊かな緑を有する大阪じょう公園（約百五ヘクタール）に近接し、大阪じょう天守閣への眺望が可能なこう立地。

・ＪＲ環状線、地下鉄中央線・長堀鶴見緑地線の四駅が存在し交通しべんな立地。

・大阪第よんの乗降客すうを誇る京橋駅ターミナルにも近接。

・主要幹線道路の中央大通りに面し、高速道路の森の宮・ほう円ざかランプがきんぼうに存在し、広域からのアクセス性が高い。

・みどり豊かな大阪じょう公園と､第二寝屋川･ひらの川に囲まれた立地。

・地区周辺には､情報関連企業が多数立地し､スマートコミュニティの取組みを推進している大阪ビジネスパーク（ＯＢＰ）地区が立地

・良好な交通しべん性および、大阪じょう公園と一体となった、大阪を代表する拠点となり得るポテンシャルを有する。

・大阪じょう公園周辺地区との回遊性向上、大阪じょう公園の豊かな緑と一体となったまちづくりにより、エリア全体での活性化が可能。

・京橋・ＯＢＰ･天満橋駅周辺等との相互連携をはかり、エリア全体の活力を創出する。

（３ページ終わり）

（４ページ）

## （３）地区内の現況と課題（内部要因）

・もと森の宮工場（ごみ焼却工場跡地）、もと焼却工場建て替え計画用地、旧成人病センター跡地など大規模な未利用地が存在。

・ＪＲ森ノ宮電車区や大阪メトロけんしゃじょうが存在し、地域分断要素となっており、地区（北部）から大阪じょう公園方面へのアクセスが脆弱。

・昭和四十年代から五十年代に建築された大規模なＵＲ団地、大阪産業技術研究所（森の宮センター）、市立森の宮小学校等がそんざい。

・ＵＲ森の宮団地・第２団地の一部の建物は将来てきに耐震化が必要。

・中浜下水処理じょう（西）は昭和三十八年につうすいし五十年以上が経過。

・森の宮病院、赤十字血液センター、大阪健康安全基盤研究所、大阪がん循環器病予防センター等の健康医療機能が集積。

・地区内の居住者人口五千四百五十八人（※平成二十七年国勢調査　大阪市町丁目別昼間人口（推計）より）のうち高齢者人口は千七百八十二人（※平成二十七年国勢調査　大阪市町丁目別昼間人口（推計）より）でその割合（約三十三％）は市内平均（約二十五％）を上回る。年少人口は三百二十六人（※平成二十七年国勢調査　大阪市町丁目別昼間人口（推計）より）でその割合（約六％）は市内平均（約十一％）を下回る。

・地区内に生鮮食料品等を取り扱う生活利便系の商業施設がない。

・低・未利用地、鉄道施設等の存在により、高度な都市てき利用がなされず、地区のポテンシャルが活かされていない。

・大阪じょう方面へのアクセスや、地区内のしょうし高齢化、生活利便系の施設不足等の課題解決が必要。

（４ページ終わり）

（５ページ）

## （４）これまでのまちづくりの経過

二千十二年（平成二十四年）四月

・大阪市戦略会議にて森の宮工場（ごみ焼却工場）の建て替え計画の中止決定

二千十二年（平成二十四年）六月

・グランドデザイン・大阪の策定

二千十四年（平成二十六年）十二月

・「府立成人病センター跡地等のまちづくり方針」の策定

二千十六年（平成二十八年）七月

・「大阪じょう東部地区のまちづくりの方向性（素案）」取りまとめ

二千十六年（平成二十八年）七月から二千十七年（平成二十九年）三月まで

・地区内市有地の有効活用に係るマーケット・リサーチの実施・結果公表

二千十八年（平成三十年）七月から十一月まで

・旧府立成人病センター跡地等に関するマーケット・リサーチの実施・結果公表

二千十八年（平成三十年）十二月

・ごみ焼却工場４工場（なんこう､港､森の宮､大正）の都市計画廃止

二千二十年（令和二年）一月

・「新大学基本構想（府市・公立大学法人大阪）」の策定

二千二十年（令和二年）三月

・「大阪スマートシティ戦略 バージョン１　e-OSAKAをめざして」の策定

### 「府立成人病センター跡地等のまちづくり方針（平成二十六年十二月）大阪府」について

### コンセプト

「た世代が交流する、学びと健康とにぎわいのまち」、交通利便性と都心部最大のみどりを活かした人とまちを元気にする拠点

土地利用ゾーニングと導入機能

○た世代交流居住ゾーン

子育て・ファミリー世帯向け居住機能、高齢者向け居住機能

○周辺との一体てきなまちづくり

歩行者導線や広場、緑地等の整備

○にぎわい創出ゾーン

高等教育・研究機能、健康・医療・介護分野の産業・研究機能、地域文化交流機能、商業・サービス機能

### 「大阪じょう東部地区のまちづくりの方向性（素案）（平成二十八年七月）」について

### まちづくりのコンセプト

『観光集客・健康医療・人材育成・居住機能の集積により、た世代・多様な人が集い、交流をはぐくむまち』

観光集客機能、健康医療機能、人材育成研究機能、た世代住居機能、都市利便機能

（５ページ終わり）

（６ページ）

### 「大阪じょう東部地区の市有地の有効活用に係るマーケット・リサーチ（平成二十八年度実施）」について

・当地区内の一部用地（「区画１・もと焼却工場建て替え計画用地」および「区画２・大阪メトロけんしゃじょう及びもと森の宮工場（ごみ焼却工場）」：合計約十一ヘクタール）について、まちづくりに資する有効な活用方法を検討するため、民間事業者で実現かのうな幅広い事業アイデア、民間の参画意向、市場性の有無等を把握することを目的に二千十六年度に大阪市においてマーケット・リサーチを実施。

・下記のとおり､一体てきに利活用する提案が十一件あり､マンションや大規模な商業施設､ホテルのほか､大学のサテライトキャンパス（※具体てきなニーズに基づく提案ではなくデベロッパーとして開発を想定した提案）・研究機関などの人材育成・研究機能もふくんだ複合てきな開発の提案あり。

マーケット・リサーチ結果

◎求める提案１（区画１を単独で利活用する提案）四件

（想定する機能）

（ア）観光・集客機能

（主な提案内容）

・観光客向けの展示や体験ブースを設けた生活、雑貨等を扱う商業施設

・観光や社会科見学に対応した工場

（想定する機能）

（イ）健康医療機能

（主な提案内容）

・提案無し

（想定する機能）

（ウ）人材育成・研究機能

（主な提案内容）

・大学関連のスポーツ施設

（想定する機能）

（エ）た世代居住機能

（主な提案内容）

・ファミリーマンション

・高齢者向けマンション

（想定する機能）

（オ）都市利便機能

（主な提案内容）

・生鮮食料ひんや生活雑貨等を取り扱う商業施設

◎求める提案２（区画１及び区画２を一体てきに利活用する提案）十一件

（想定する機能）

（ア）観光・集客機能

（主な提案内容）

・大規模アリーナ ・大規模商業施設 ・ホテル

（想定する機能）

（イ）健康医療機能

（主な提案内容）

・高齢者対応、高度医療、人間ドッグ等の機能を備えた医療施設

・医療ツーリズムに対応した施設

（想定する機能）

（ウ）人材育成・研究機能

（主な提案内容）

・大学のサテライトキャンパス ・研究機関

（想定する機能）

（エ）た世代居住機能

（主な提案内容）

・ファミリーマンション ・高齢者向けマンション ・た世代対応マンション

（想定する機能）

（オ）都市利便機能

（主な提案内容）

・生鮮食料ひんや生活雑貨等を扱う商業施設 ・クリニック

（６ページ終わり）

（７ページ）

## （５）地区を取り巻く新たな動向

### １）新大学都心キャンパスの立地

二千二十年（令和二年）一月　大阪府、大阪市及び公立大学法人大阪の三者による「新大学基本構想」を策定（二千二十年（令和二年）七月かいてい）

◎「新大学基本構想（府・市・公立大学法人大阪）」（二千二十年（令和二年）七月改訂版）より

**【キャンパス整備の方針】**

・新大学では、二千二十五年度をめどに都心メインキャンパスを森の宮に整備するとともに、同種分野で集約化を行う学部（工学部、理学部、看護学部）については、同いつキャンパスで教育を行う必要があることから、キャンパスの集約化を優先てきに進める。

・都心メインキャンパスには、全学の学生が一堂に集う基幹教育とともに、大阪の都市課題の解決や成長に貢献していくためにひつような機能（都市シンクタンク機能や技術インキュベーション機能の拠点）のほか、森の宮キャンパスに必要なものについてはいちする。

・都心メインキャンパスの整備にあたっては、費用負担軽減に向けて民間活用の検討を行う。検討の結果、適用可能なものについては、民間活用を行う。

**【都心キャンパスの機能とねらい】**

・約七千人の学生や多くの教職員が活動することにより、地域住民や観光客との交流が生まれ、また、大学施設の開放、生涯学しゅう・リカレント教育の実施などにより、学生が他しゃや社会に関わる力を身に付けるとともに、大阪じょう東部のまちの活性化につなげる。

・二千二十五年大阪・関西万博のレガシーとしてキャンパスを未来社会の実験場として整備し、キャンパスでの実践・実証をおこなう。さらに、周辺地域にも拡大するなど、社会実装に結びつけ、課題解決方策と新しいまちづくりのインキュベーションをめざす。

早期に利用可能な土地である「もと建て替え計画用地」で、森の宮キャンパスの学舎整備を進める方針を府市で決定

（７ページ終わり）

（８ページ）

### ２）大阪スマートシティ戦略（大阪スマートシティ戦略 バージョン１e-OSAKAをめざして【大阪府・大阪市 令和二年三月三十一日】より）

◎府域での展開イメージ

・条件の整った市町村と連携して、地域の特性に応じて、ソリューションの持続てきな担い手を確保しつつ、それぞれの課題に　応じた実証・実装を進めていく。

・その成果をもって、府域での機運醸成を促すとともに、効率てきに、府域全体への横展開をめざす。

（都心部・市街地）

・オフィスや商業施設が立地する都心の中心部やその周辺の市街地は、集中する昼間人口、複雑で混雑状態にある交通網、高層・多層化する都市構造など、大都市特有の課題を多く抱えていることから、交通利便性の向上や災害時の被害軽減など都市課題のかいけつに向けた取組を進める。近年、再開発が進むエリアも多いことから、国内外の先進事例に学びつつ、まちづくりと合わせた様々なソリューションの実証・実装を行う。

・また、大阪経済のけん引役として、文化・娯楽・観光資源の充実・活用に向けた取組も進める。例えば、AR・VRをはじめとするテクノロジーを活用した文化資源の価値の向上や新たな価値の創造、利便性向上のためのMaaS・キャッシュレスの推進などが想定される。

例　森の宮エリア

（概要）

・現在、府立大学と市立大学を統合した新大学のキャンパスを二千二十五年度をめどに整備を進めることとしている。

・新大学を先導役にして、観光集客・健康医療・人材育成・居住機能の集積により、た世代・多様な人が集い、交流する国際しょくあるまちづくりを検討中。

（取組の例）

健康医療・環境等の既存資源を活かしたスマートシティの実証・実装フィールドとしての活用を検討中　など

（８ページ終わり）

（９ページ）

# ２．大阪じょう東部地区のまちづくりコンセプト及び戦略

## コンセプト　大学とともに成長するイノベーション・フィールドシティ

・新大学を先導役にして、観光集客・健康医療・人材育成・居住機能の集積等により、た世代・多様な人が集い、交流する国際しょくあるまち

## コンセプトを具体化する戦略・シナリオ等

### １．まちにひらかれ､まちとともに成長する「次世代型キャンパスシティ」

１）まちにひらかれたキャンパスシティ（キーワード：市民開放・産学官民連携・国際交流）

・都心立地を活かし､住民開放・産学官民連携・国際交流などの機能を有する新大学を核としたまち

（→例．大阪工業大学梅田キャンパス、横浜教育文化センター跡地、中野四季の都市、ＮＹコーネルテック等）

２）まちとともに成長するキャンパスシティ（キーワード：街の成長牽引・リビングラボ）

・新大学が先導役となり､まちの成長を牽引し､まちの課題を解決しながら発展するまち

（→例．柏の葉アーバンデザインセンター、ナレッジキャピタル、WISE Living Lab（たまプラーザ駅北側地区）等）

### ２．健康医療・環境等の既存資源を活かした「スマートシティの実証・実装フィールド」

１）スマートエネルギー､スマートモビリティ等の実証・実装フィールド（キーワード：スマートエネルギー・スマートモビリティ）

・豊富な水･緑､供給処理施設を活かしたスマートエネルギーの実証･実装や､基盤整備を伴う大規模なまちづくりを活かしたスマートモビリティの実証･実装フィールド

（→例．柏の葉スマートシティ、ＮＹハドソンヤード、しながわシーズンテラス等）

２）スマートエイジングシティの実証・実装フィールド（キーワード：スマートエイジング）

・大学と、健康医療機関、ＵＲ、企業等が連携し「健康寿命の延伸」「ＱＯＬの向上」「住み続けられるじゅう環境の形成」に先導てきにとりくむまち

（→例．柏の葉スマートシティ、ＵＲ大規模団地をフィールドとした取組み（河内長野市なんかだい団地､こうぞうじニュータウンなど）等）

### ３．多様なひと､機能､空間､主体が交流する「クロスオーバーシティ」

１）多様なひと：多様な世代､国籍､目的の人々（学生､住民､就業者､観光客）が集い交流するまち（キーワード：学生プラス住民プラス就業者プラス観光客）

（→例、中野四季の都市、柏の葉スマートシティ等）

２）多様な機能：しょくじゅうゆうがくなどの多様な機能が重層てきに集積し､互いに相乗効果をもたらすまち

（キーワード：しょくじゅうゆうがく×重層空間）

（→例．ＮＹハドソンヤード （操車じょう上部利用） 、しながわシーズンテラス（芝浦水再生センター上部利用） 等）

３）多様な空間：大阪じょう公園の緑や水辺空間と一体てきに､公共てき空間と民間空間が調和した､デザイン性のあるまち　（キーワード：　空間デザイン）

（→例．デザイン性に優れた、デッキ空間（ハイライン等）、親水空間（日本橋川ぞい計画）、公民連携空間（丸の内仲通り）等）

４）多様な主体：産学官民の多様な主体が連携し､エリアマネジメントを展開するまち　（キーワード：エリアマネジメント）

（→例、柏の葉アーバンデザインセンター　等）

（９ページ終わり）

（１０ページ）

# ３．コンセプト及び戦略を受けての展開イメージ

## （１）『次世代型キャンパスシティ』の展開イメージ

○次世代型キャンパスシティの中核機能・場を「イノベーション・コア」と位置付ける。

○「イノベーション・コア」は、「大学の基本機能」＋「大学が先導役となり展開する機能」を中心に構成する。

・「大学が先導役となり展開する機能」としては、「スマートシティ推進機能」「都市シンクタンク機能」「技術インキュベーション機能」「文化･芸術､国際交流機能」「大学､研究所のサテライト等機能」などの導入を図る。

・また、大学が先導役となり、住民や学生、ユーザーなども巻き込みながら、産学官民連携のもと、地域課題を解決するような、幅広いオープンイノベーションの展開を図る。

○次世代型キャンパスシティでは、「イノベーション・コア」を中心に、新たなイノベーションが誘発されるよう多様な機能のしゅうせき・連携を図る。

（イノベーション・コアの説明、業務系機能の説明、商業系機能の説明、宿泊系機能の説明、居住・健康医療系機能の説明）

（１０ページ終わり）

（１１ページ）

### イノベーション・コア

#### 大学の基本機能

◎都心キャンパス機能

→大阪の発展を牽引する「知の拠点」である新大学の存在を存分に活かした新たなコミュ二ティの形成

→大学のフロントラインとして、杉本キャンパスやなかもずキャンパスなどと連携したイノベーションの誘発

#### 大学が先導役となり展開する機能

時代の先を切り開くアカデミアの新たな科学・技術とアート・デザインの融合（STAD※）によるまちづくり・ひとづくり

※STADとは、科学（science）、技術（technology）、アート（art）、デザイン（design）の頭文字から取った略語

◎スマートシティ推進機能

○データ連携プラットフォーム

・住民、行政、大学、民間がきょう創（活動）できるフィールドの実現

・アプリの横展開および統合型アプリ開発支援など

○データマネジメントセンター

・行政などの各種ビッグデータの管理、分析、活用

・阿倍野キャンパス（医学）、なかもずキャンパス（工学、情報学ほか）と連携したデータ利活用のマッチング、コーディネート機能

・地区内や周辺の各種データの収集・分析・活用による課題解決やまちづくりの推進、リビングラボの拠点施設

○スマートユニバーシティ

・セキュア（安全）な状態で学内のデータを収集・分析し、教育支援、大学生活の質を向上

・最新の研究開発技術等の実証支援

◎ 都市シンクタンク機能（研究・きょうそうを支援するコミュニティの形成）

○大阪府・大阪市・大学法人合同プラットフォーム

・強力なタッグのもと、府市の喫緊の都市問題に対応

・府市や公てき研究機関、民間からの外部人材も入れるクロスアポイントメント、人事交流

○（仮称）大阪森の宮リビングラボ：コワーキングスペース、カンファレンス・スタジオ等

　・住民等のエンドユーザーも参画した産学官民によるオープンイノベーション

　・アカデミアとイノベータのコラボレーション

◎技術インキュベーション機能（バイオエンジニアリング、医工連携等）

○産学共同ラボ＋交流センター

・理工系のサテライト機能

・大学の先端てき研究をアピールしきょうそうを誘発

・大学（医学、生活科学、リハビリ学、工学ほか）と企業・ものづくり産業等との共同研究やマッチング機能等

○万博後のコンテンツ等の継承発展に資する機能

・地球に優しい持続可能な未来型住環境のモデルハウス化

・「スマートリハビリテーション研究センター」によるスマートエイジングシティの推進など

○スタートアップ支援機能

・ 先端ヘルスケアなどの未来シーズ探索、学生の社会実学学習

・大学発ベンチャー促進

◎人材育成機能

○リカレント教育の場

・大阪の発展に貢献する専門職業人、専門てきな知識・技能等を有する企業経営者等の養成

◎ 文化・芸術、国際交流機能

○アート、リベラルアーツの多目的スペース

・文化・芸術、人文科学の知の創出と発信

○新しい形のライブラリー

・デジタルコンテンツの充実、メーカースペースなど

・学生に加え、府民・市民、企業にも開放、リビングラボの拠点施設

○大学コンソーシアム機能等

・研究・きょうそうを支援するコミュニティの形成

◎大学､研究所のサテライト等機能

（１１ページ終わり）

（１２ページ）

## （２）『スマートシティ』の展開イメージ

◎現状を踏まえて　〜将来てきな取組みテーマ（例）〜

当該地区の立地や特徴てきな既存施設などを踏まえ、以下のとおり将来てきな取組みテーマ（例）を想定。

・鉄道施設等の存在、『モビリティ』、・下水処理施設等の存在、『環境・エネルギー』、・大規模団地＋病院立地、『ヘルスケア』

・大阪じょう公園等と隣接、『観光集客』、・密集住宅市街地と隣接、『防災・防犯』、など

◎展開イメージ

極力早期に取組みを検討したいテーマ例は以下のとおり。

１．「モビリティ」

・スマートモビリティを活用した主要ターミナル等からの地区内アクセス確保について検討

２．「へルスケア」

・森の宮地区において進められている「スマートエイジングシティ」の取組みについて、新大学の立地を契機に拡充を検討

・地域のコミュニティやスマートホスピタル（阿倍野キャンパス等）と連携するウエルネススマートシティを市民ときょうそう（新たなリビングラボ機能）

※上記に関しては、イノベーション・コアにおいて大学が先導役となり展開するスマートシティ推進機能（データマネジメントセンター等）と連携し、データ収集・分析・活用しながら展開する。

## （３）『クロスオーバーシティ』の展開イメージ

◎現状と課題、〜当該地区の「ひと」「機能」「空間」「主体」について〜

ひと：国内外から多くの人が訪れる大阪じょう公園に隣接しているが、地区内は、集合住宅居住者や就業者が中心

機能：現状では高度利用が難しい鉄道施設や下水処理じょう等の大規模な敷地が立地

空間：大阪じょう公園の緑や水辺空間との一体性に乏しい（周辺資源を活かせていない）、魅力てきな景観・空間の形成には､これらの調和が不可欠

主体：近隣には特徴てきなエリアが存在しており、隣接するＯＢＰ等ではエリアマネジメント活動に積極てきにとりくまれている

◎展開イメージ、　多様なひと､機能､空間､主体のクロスオーバー促進

１．住民･就業者＋大学関係者･観光客等のクロスオーバー促進

→住民・就業者だけでなく､大学関係者や観光客など新たなひとの交流を促進

２．多機能化×重層化による機能面でのクロスオーバー促進

→「イノベーション・コア」を中心に、業務･商業･宿泊･居住などの多様な機能が交流･連携しイノベーションを誘発

→鉄道施設や下水処理じょう等の上部利用などにより､重層てきな土地利用促進を検討

３．大阪じょう公園の緑や水辺空間と一体てきに､公共てき空間と民間空間が調和した､デザイン性を重視

→大阪じょう公園の緑との連続性を意識した空間形成や､大阪じょう公園北側で整備が進む親水空間と一体てきな水辺空間の形成検討

→大阪じょう公園全体の眺望及び大阪じょう天守閣への眺望に配慮した景観形成の検討

→地区内の公共てき空間と民間空間との調和とともに、民間施設そのもののデザイン性の確保を促すなど地区内の調和のとれたデザインマネジメントの検討

４．多様なプラットフォーム形成による主体間のクロスオーバー促進

→「イノベーション・コア」を有効に機能させるための、産学官民連携のプラットフォーム（ニアリーイコール都市シンクタンク機能、【府・市・大学法人合同プラットフォーム、（仮称）大阪森の宮リビングラボ】）形成検討

→大阪じょう東部地区の価値向上のため、地権者を中心に､住民･就業者･学生等も参画するプラットフォーム（ニアリーイコールエリアマネジメント組織）形成検討

→周辺地区（ＯＢＰ・大阪じょう公園・京橋周辺等）のまちづくりと連携して活動するためのプラットフォーム（ニアリーイコールエリアマネジメント連絡会）形成検討

（１２ページ終わり）

（１３ページ）

# ４．土地利用・基盤整備計画

## （１）基本てきな考え方

・充実した交通インフラや大阪じょう公園に隣接した立地特性を活かし、土地利用転換・機能更新と併せて基盤施設や水辺空間等の整備を進め、東西軸のヒガシの拠点に相応しい土地の高度利用と良好な市街地環境の形成を図る。

## （２）土地利用計画　ゾーニングの考え方

１）『イノベーション・コアゾーン』

従来型の整備方式に加え、民間活力を導入した段階てきな整備を想定。

１期としては、土地の高度利用を図りながら、まちに開かれた新大学の都心キャンパス（森の宮キャンパス）を整備する。

１.５期として、民間活力を導入し土地の高度利用を図りながら、大学施設関連機能を中心に、こくさいしょくある業務・しょうぎょう・宿泊・居住などの多様な交流・連携機能等を確保してイノベーションの誘発を図る。

２）『親水空間＋立体活用ゾーン』

イノベーション・コアゾーンと連坦し、河川との親水性や大阪じょう公園との一体性を図る。鉄道施設・下水処理じょう等の上部利用等により､立体てきな土地の高度利用を図る。

３）『た世代居住複合ゾーン』

イノベーション・コアゾーンと連坦し、複数立地する健康医療機能等と連携し、スマートエイジングシティの取組みを展開しながら、多様な世代※が健康で安心に住み続けられる、にぎわいにも寄与する商業・業務なども含めたじゅう環境の実現を図る。

（※多様な世代とは、学生､子育て層､ファミリー層、高齢者 など）

４）『拡張検討ゾーン』

・当面は鉄道施設として継続利用し、将来てきには、社会動向や地区内のまちづくりの動向を踏まえ、上部利用範囲の拡大や土地利用転換等も検討する。

ゾーニングイメージの画像

（１３ページ終わり）

（１４ページ）

## （３）基盤整備計画　各種動線の考え方

歩行者空間について

方針：利便性･快適性･安全性に優れた歩行者重視のまちづくり

１）利便性の向上

・今後、新大学整備をはじめとした大規模開発に伴い､交流･定住人口の大幅な増加が見込まれるなか、それらの人々の利便性向上のため、現在不足している「鉄道駅と地区内とを円滑に繋ぐ歩行者動線の確保」を図る。

２）快適性の向上

・緑豊富な大阪じょう公園や､第二寝屋川等にも接する立地を活かし、「水･緑の空間を楽しく回遊でき､健康増進にも資する歩行者動線の確保」を図る。（ウォーカブルシティやアクティブデザインの概念を取り入れる）

３）安全性の向上

・歩道が無い､または､狭い区間における歩行者空間の拡充や、東側の密集住宅市街地から広域避難場所である大阪じょう公園へのふくすうの避難ルートの確保など、「交通･防災の両面で安全性向上にも資する歩行者動線の確保」を図る。

歩行者空間の整備（例）

１）「鉄道駅と地区内とを円滑に繋ぐ歩行者動線の確保」

例）鉄道施設上部における東西連絡デッキ等の東西動線の整備、東西通り抜け通路の充実　など

２）「水･緑の空間を楽しく回遊でき､、健康増進にも資する歩行者動線の確保」

例）河川沿いの水辺空間の整備、大阪じょう公園内の歩行者動線と繋がった外周歩行者空間の拡充　など

３）「交通・防災の両面で安全性向上に資する歩行者動線の確保」

例）新築、建て替えに合わせたセットバック、歩行者空間の拡充、東側密集住宅市街地から大阪じょう公園への複数避難ルートや一時避難場所の確保　など

４）「多様な人の交流や防災性にも寄与する広場空間の確保」

例）動線結節点におけるシンボルてきな広場確保　など

車両動線について

・車両動線はシンボルアベニュー（仮称）となる豊里矢た線を基本とし、開発に伴い敷地ごとにアクセス動線を確保

・スマートモビリティを活用した主要ターミナル等からの地区内アクセス確保について検討

主要各動線イメージの画像

（１４ページ終わり）

（１５ページ）

# ５．想定される開発の進めかた

１期（二千二十五年四月まで）

イノベーション・コアの整備

１）１期都心キャンパスの整備

２）１．５期の施設整備

１．５期（二千二十五年以降できるだけ速やかに）

イノベーション・コアの整備

２）１．５期の施設整備

２期、３期

２．親水空間＋立体活用ゾーンの整備

３．た世代居住複合ゾーンの整備

４．拡張検討ゾーンの整備

※その他のゾーンでは、大学＋イノベーション・コア等が先行立地する優位性を背景に、順次、高度利用化や機能更新を図る。

※記載する年次はあくまで各ゾーンでの建築計画をイメージした想定です。確定したものではありません。

（１５ページ終わり）

（１６ページ）

１期、１．５期の開発展開イメージ（例）

１期整備（二千二十五年四月まで）

◎ハード面での整備イメージ

・新大学都心キャンパスの整備、東西動線の整備

◎ソフト面での展開イメージ

・大学と地域等との連携（次世代型キャンパスシティとしてのイメージ醸成の観点からも開所以前の早い段階から順次展開）

例）既存広場や暫定利用空間も活用して、各学科の特徴を活かした健康･食､文化･芸術等に関する地域連携活動を展開

例）ＵＲ団地と連携して､団地居住者と学生との交流活動を展開

・スマートモビリティを活用した地区内アクセス確保の検討

大学と連携した様々な活動がシンボルアベニューに表出し、「まちにひらかれまちとともに成長する次世代型キャンパスシティ」けいせいの始まりを印象づける（期待を高める）

１期開発展開イメージ（例）の画像、既存広場活用のイメージ（例）の画像、スマートモビリティイメージ（例）の画像

１．５期整備（二千二十五年以降できるだけ速やかに）

◎ハード面での整備イメージ

１．５期の施設整備

１．５期の整備にあわせて東西動線（鉄道施設上部）の整備

動線結節点での広場空間確保

もと森の宮工場の暫定利用

◎ソフト面での展開イメージ

・大学と地域等との連携（拡充）

例）動線結節点に新たに創出される広場空間を核にしながら、既存広場や暫定利用空間等も活用し、大学と地域との連携活動をかくじゅう

・イノベーション・コア機能の本格稼働

例）モビリティやヘルスケアなど、可能な分野から随時スマートシティに関する実証･実装を開始

スマートシティの実証･実装フィールドとしての姿､重層利用されたクロスオーバーシティとしての姿が広く発信される（民間開発を誘引する）

１．５期開発展開イメージ（例）の画像、暫定利用のイメージ（例）の画像、広場まわりのイメージ（例）の画像、東西デッキのイメージ（例）の画像、スマートシティ実証イメージ（例）の画像

※２期・３期の展開イメージについては、順次バージョンアップを図る。

（１６ページ終わり）

（１７ページ）

# ６．二千二十年度以降の取組み

## 全ゾーン共通

当面取組みを進める主な内容

### 地区内の土地の高度利用を図る手法の検討、二千二十年度に関係者で構成される検討体制を構築

（例）都市再生緊急整備地域（※）における容積緩和の特例措置、都市計画手法等の活用 など

（※）現在、指定について、都市再生特別措置法第５条第１項に基づき、国に対して二千二十年四月七日申出済

### エリアマネジメント組織の形成に向けた検討、二千二十年度に関係者で構成される検討体制を構築

・地権者や有識者等を交えた地区内のエリアマネジメント組織

（契機となる初動てきな取組み）

１）デザインコントロール

若手ｸﾘｴｲﾀｰ等の助言も取り入れた大学施設のデザインや活用方策検討、これを契機としたデザインマネジメント組織（有識者ふくむ）の組成を検討

２）エリアプロモーション

大学が先導役となり展開する機能をはじめ、地区の特性を活かしたコアとなる企業等の誘致に向けた関係者間での協議・調整、これを契機として、地権者や有識者等を交えたエリアマネジメント組織の組成・発展

### 周辺地域と連携したまちづくりの展開の検討

・周辺地域も含めたエリアマネジメント連絡会 など

## イノベーション・コアゾーン

当面取組みを進める主な内容

### スマートシティ戦略推進のため新大学主体のデータ連携プラットフォームの形成検討、二千二十年度に関係者で構成される検討体制を構築

・新大学データ連携プラットフォーム、データ利活用のしくみ、スマートキャンパスなど

### 都市シンクタンク機能にかかる検討、【府・市・大学法人合同プラットフォーム、（仮称）大阪森の宮リビングラボ】、二千二十年度に関係者で構成される検討体制を構築

・きょうそう活動を通じた研究開発、社会課題の解決のための実体ある組織と運営のしくみを検討

### 大学のキャンパス整備にかかる民間活力導入手法の検討

・対象となる大学関連施設、対象範囲、事業スキーム（PFI や 民間収益施設とのがっ築等） など

### 東西動線の確保に向けた整備手法等の検討、二千二十年度に関係者で構成される検討体制を構築

・整備内容、事業スキーム、費用負担 など

## 親水空間＋立体活用ゾーン

当面取組みを進める主な内容

### 水辺動線の整備手法等の検討

・整備内容、事業スキーム、費用負担 など

### 下水道施設の立体てきな土地利用の検討

・民間開発にあわせた事業スキームの検討 など

## た世代居住複合ゾーン

当面取組みを進める主な内容

### 連鎖型都市再生の検討

・関係者間の調整、事業スキーム、ＵＲ団地の団地再生 など

### 成人病センター跡地等の活用に向けた検討

## 拡張検討ゾーン

当面取組みを進める主な内容

### 東西動線の確保に向けた整備手法等の検討、【再掲】、二千二十年度に関係者で構成される検討体制を構築

（１７ページ終わり）

（１８ページから２２ページまで）

# ＜参考＞ 用語集

３ページの　スマートコミュニティ

再生可能エネルギーを最大限活用しつつ、エネルギー消費を最小限に抑えるため、家庭やビル、交通システムをITネットワークで繋ぎ、地域でエネルギーを有効活用する次世代の社会システム。

（出典：経済産業省資源エネルギー庁ホームページの記載内容より

５ページの　大阪スマートシティ戦略

大阪のスマートシティ化に向けた具体てきな方向性や実践てきな取組を示したもの。本戦略は大阪府における「官民データ活用推進計画（※）」に位置付けている。

（※）官民データ活用推進計画とは、官民データ活用推進基本法において都道府県に設置が義務付けられた計画

５ページの　スマートシティ

先進てき技術の活用により、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、各種課題の解決を図るとともに、快適性や利便性を含めた新たなかたちを創出する取組み。

（出典：スマートシティ官民連携プラットフォーム）

７ページの　シンクタンク

一般てきには、さまざまな領域の専門家を集めた研究機関

「都市シンクタンク機能」は、『新大学基本構想』（令和二年一月）で示された新大学がめざす機能の１つであり、「パブリックデータの分析や産官学のネットワークなど、“公立大学”のアドバンテージを最大限に活用し、府市と密接に連携しながら大阪の都市課題解決に貢献する」とされている。

７ページの　インキュベーション

一般てきには、設立してまがない新企業に国や地方自治体などが経営技術・金銭・人材などを提供し、育成すること

「技術インキュベーション機能」は、『新大学基本構想』（令和二年一月）で示された新大学がめざす機能の１つであり、「両大学がもつ理学・工学・農学・医学・じゅう医学・生活科学など、各分野の強みを持ち寄り、更なる企業連携や、新たな研究に取り組むことにより、大阪産業の競争りょくの強化に貢献する」とされている。

７ページの　リカレント教育

職業人を中心とした社会人に対して、学校教育の終了後、いったん社会に出てから行われる教育であり、職場から離れて行われるフルタイムの再きょういくのみならず、職業に就きながら行われるパートタイムの教育も含む。

７ページの　レガシー

遺産、遺ぞう（財産）、受け継いだもの、遺物

８ページの　ソリューション

課題やニーズに対し、先端技術を活用した解決策。（出典：大阪スマートシティ戦略 バージョン１）

８ページの　ＡＲ（Augmented Reality）

「拡張現実」。スマートフォンなどを通じて、現実の風景の中に CG などの視覚情報を重ねて表示したもの。

（出典：大阪スマートシティ戦略 バージョン１）

８ページの　ＶＲ（Virtual Reality）

「仮想現実」。ゴーグルなどを装着することでユーザーの五感を刺激し、本物そっくりの仮想現実を体験できる。

（出典：大阪スマートシティ戦略 バージョン１）

８ページの　ＭａａＳ（Mobility as ア Service）

利用者の多様なニーズに合わせ、交通手段、事業者の垣根なく、最適な交通手段、経路、魅力情報等が検索、予約、決済できる一元てきなサービス。

（出典：大阪スマートシティ戦略 バージョン１）

９ページの　イノベーション

新技術の発明や新規のアイデア等から、新しい価値を創造し、社会てき変化をもたらす自発てきな人・組織・社会での幅広い変革のこと。

（出典：総務省平成二十八年版情報通信白書 用語解説

９ページの　リビングラボ

新しい技術やサービスの開発にて、ユーザーや市民も参加するきょうそう活動、またはその活動拠点のこと。社会課題の解決や技術やサービス、せいひんの開発のプロセスに市民やユーザーなど多様な関係者が参加する、オープンイノベーションのしくみ。

９ページの　スマートエネルギー

分散型エネルギーシステムとともに、再生可能エネルギー、未利用エネルギーを大幅に導入して、電力・熱の融通を行いながら情報通信技術の活用によりエネルギー需給を最適に制御することで、快適な生活を維持しつつ省エネ・省CO２を達成する次世代エネルギー社会システム

９ページの　スマートモビリティ

アイオーティー（モノのインターネット）やAI（人工知能）を活用した新たな移動手段

９ページの　スマートエイジングシティ

「ヘルスケア」や「エイジング」をコンセプトとして、「今いる住民が住み慣れた地域で安心して快適に住み続けられ、かつ多様な世代の新たなじゅうみんを惹きつける、超高齢社会における活気あるまちのモデル実現」をめざす取組み。

（出典：大阪府ホームページ）

９ページの　ＱＯＬ（Quality of Life）

生活の質。

９ページの　クロスオーバー

異なる要素同士が互いのジャンルを越えて交じり合い、新しい物事を生み出すこと。

９ページの　エリアマネジメント

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体てきな取組み。

（出典：国土交通省土地・水資源局「エリアマネジメント推進マニュアル」

１０ページの　ユーザー

ある製ひんを実際に使ったり消費したりする人。

１０ページの　オープンイノベーション

組織内部と外部のアイデア・技術を組み合わせることで、革新てきで新しい価値を創り出す手法。

１０ページの　スタートアップ

起業、新規事業の立ち上げ、設立後まもない企業のこと。

１０ページの　コワーキング

複数の企業がシェアして利用するオフィススペース。企業や、フリーランス、起業家が一定の契約のもとにスペースを活用して仕事をしたり、情報交換やイベント開催をおこなってビジネスをおこなうオフィスもある。

（こう労省テレワーク導入・運用ガイドブックを参考に

１０ページの　ＭＩＣＥ

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 （Convention）、展示会・見本いち、イベントExhibition/Event）の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称のこと。

（出典：日本政府観光局ホームページ）

１０ページの　スマートハウス

家の中のあらゆる「モノ」をインターネットにつなぎ、それを活用することでより豊かな生活を実現する住宅

１１ページの　フロントライン

先頭、最前線、第一線、前線

１１ページの　アカデミア

学界、学術研究機関

１１ページの　プラットフォーム

基盤や土台、環境を意味する言葉。ビジネス用語としては、商ひんやサービスを提供する企業と利用者が結びつく場所を提供すること。

１１ページの　クロスアポイントメント

出向元機関と出向機関の間で、出向に係る取きめ（協定等）の下、当該取きめに基づき労働者が二つ以上の機関と労働契約を締結し、双方の業務について各機関において求められる役割に応じて従事比率に基づき就労することを可能にする制度。新たなイノベーションの創出に向けて、研究者等の人材が、大学、公てき研究機関や企業等の壁を越えて、複数の機関において活躍できるよう、人材のこう循環を招く環境整備を図っていくことが重要となっている。

１１ページの　カンファレンス

主に学術てきな会議や研究会、協議会、検討会などのこと。

１１ページの　エンドユーザー

ある製ひんを実際に使ったり消費したりする人や組織のこと。

１１ページの　イノベータ

新製ひんやアイデアを、周囲の人に影響されず、自ら進んで採用する消費者や企業のこと。

１１ページの　ヘルスケア

健康の維持や増進のための行為や健康管理のこと

１１ページの　シーズ

研究開発や新規事業創出を推進していく上で必要となる発明（技術）や能力、人材、設備などのこと

１１ページの　リベラルアーツ

人文科学・社会科学・自然科学の基礎分野 （disciplines） を横断てきに教育する科目群・教育プログラムのこと。専門職業教育としての技術のしゅうとくとは異なり、思考りょく・判断りょくのための一般てき知識の提供や知てき能力を発展させることを目標にする教育を指すものとされる。

１１ページの　コンソーシアム

同じ目的を持った仲間のこと。ビジネスや大学間で結ばれる事業共同体を指す。

１２ページの　スマートホスピタル

AIや情報通信技術（ICT）、ロボットなどの最新技術を導入し、蓄積した医療・健康データの活用にも積極てきな病院のこと。

『新大学基本構想』（令和二年一月）では、医療及び従事者をアシストする次世代ＡＩ医療システムの構築や健康・医療情報の広域ネットワークとＡＩのアシストによるテーラーメイド医療を目指している。

１７ページの　事業スキーム

目的を達成するための具体てきな手順や仕組みが備わった計画。

１７ページの　ＰＦＩ（Private Finance Initiative）

民間の資金と経営能力・技術りょく（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法。

（出典：内閣府ホームページより）

１７ページの　エリアプロモーション

地域のイメージ向上やブランドの確立を目指して、地域を宣伝・広報する取組み。

（終わり）